

2021 年度トピックス調査

「衣服と環境に関する調査」の概要と結果

当協会は、会員大学の協力のもとにTA (Textiles Advisor:衣料管理士)の養成課程の学生に、「衣料の使用実態調査」(取得・所持・使用の実態)を毎年実施している。同時に話題性の高いテーマでトピックス調査を実施している。

繊維ファッション業界においても SGD^s は重要な取組となっている。コロナ禍の中ではあるが、サステイナブルな視点から次世代を担う女子大生に対して、令和 3 年度は「衣服と環境に関する調査」を行った。

図 4・図 5 については、2009 年(n=782)に 2021 年(n=590)と同様の質問を実施しており、2 時点の比較によりまとめた。

調査実施概要

調査対象	全国の衣料管理士養成課程の女子学生 590 名 (平均年齢 19.9 歳)
調査期間	令和 3 年(2021 年)12 月末から 令和 4 年(2022 年)1 月初旬(冬休み期間)
調査方法	配票調査及び託送調査

調査結果概要

●不要になった衣服は「有料で人に譲りたい」がトップ

まず、不要になった衣服の処分についてどのように考えるかを訪ねたところ、「有料で衣服として再度使えるように他の人に譲りたい」が 370 人と最も多い。「無料で譲る」342 名を上回っており、「有料で譲る」ツールとして、女子大生にはメルカリなどのアプリの浸透が伺える

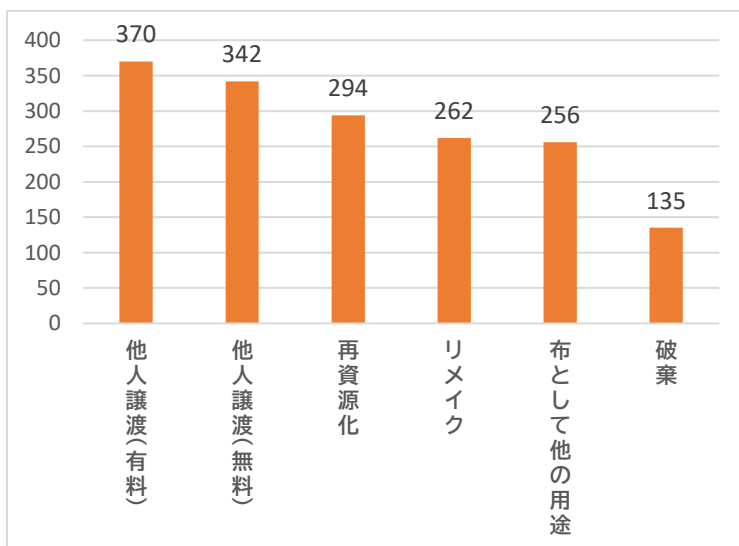


図 1 : 不要になった衣服の処分方法の考え(複数回答)(単位:人)

●古着の購入について

家族間の譲渡・交換を除いて古着を購入または入手したことがある人は 72.4%であった。女子大生全体の 3/4 近くが古着の購入経験があると回答しており、古着ブームを裏付ける結果となった。

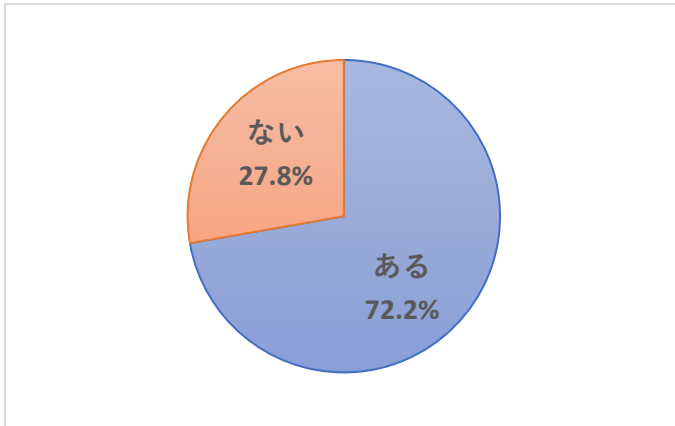


図 2：古着の購入経験について

●古着の入手・購入先について

古着の入手先は 350 名が実店舗の古着専門店で、2 位のフリマアプリ 154 名、3 位のリサイクルショップ 141 名を大きく上回っている。コロナ禍の中ではあるが、本調査の女子大生は、古着販売の実店舗を積極的に利用していることがわかった。

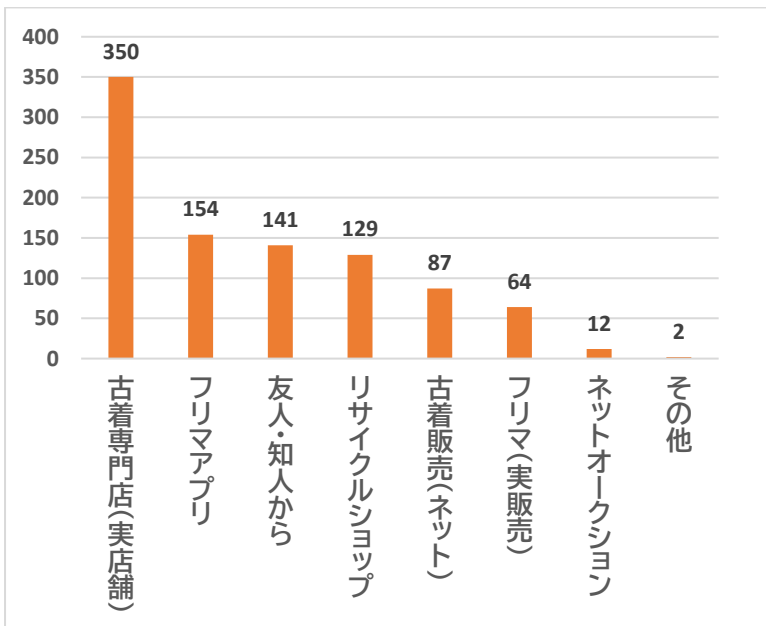


図 3：古着の入手・購入先 (複数回答) (単位:人)

●古着ファッションに対するイメージはポジティブに

古着ファッションに対するイメージに関して2009年と2021年に同様の質問を実施し、経時変化を調べた結果、2021年では「味がある」「おしゃれ」が伸びている。

また、「清潔感に欠ける」「安っぽい」というネガティブイメージは減り、「環境にやさしい」「素敵だ」といったポジティブイメージが12年前に比べると割合的に増加している。

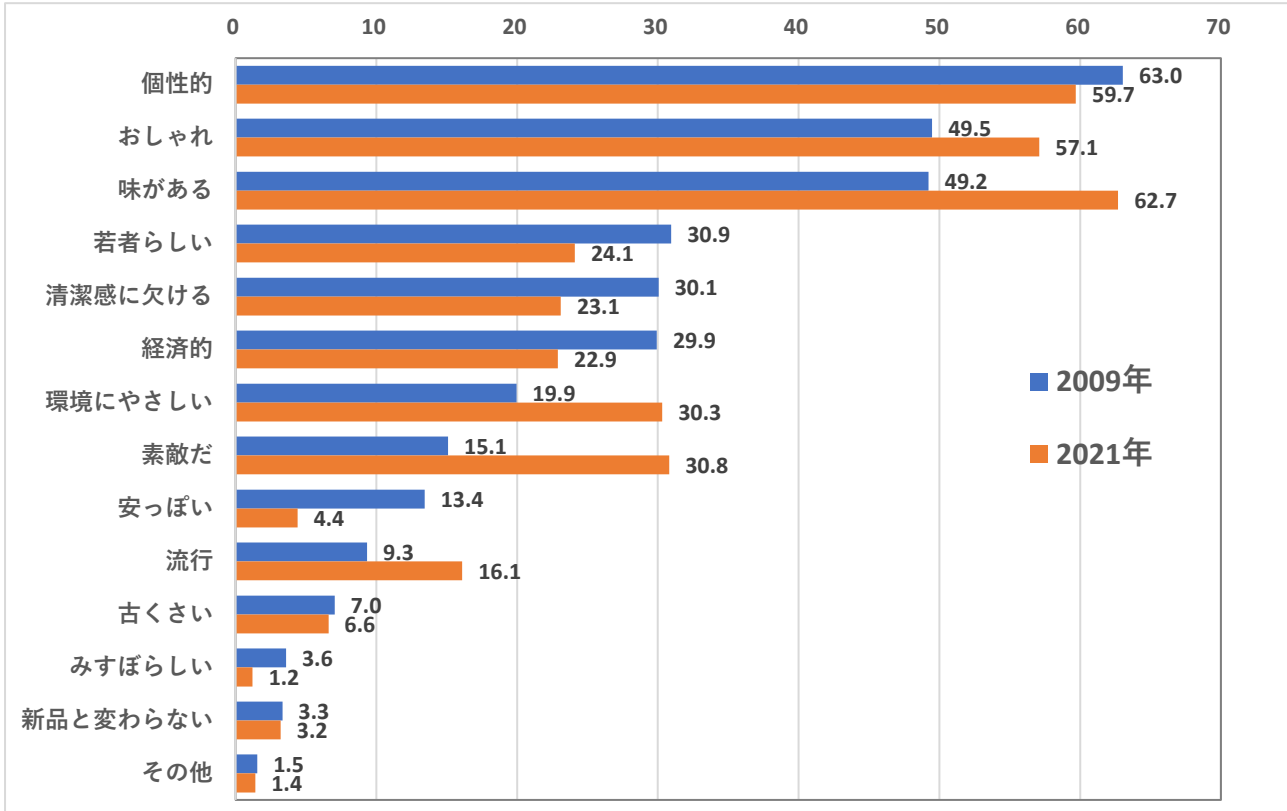


図4：古着ファッションに対するイメージ（複数回答）（単位：%）2009年(n=782) 2021年(n=590)

表1：古着ファッションに対するイメージ（複数回答）

カテゴリ	2009年度調査		2021年度調査	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%
合計	782	100.0	590	100.0
個性的	493	63.0	352	59.7
おしゃれ	387	49.5	337	57.1
味がある	385	49.2	370	62.7
若者らしい	242	30.9	142	24.1
清潔感に欠ける	235	30.1	136	23.1
経済的	234	29.9	135	22.9
環境にやさしい	156	19.9	179	30.3
素敵だ	118	15.1	182	30.8
安っぽい	105	13.4	26	4.4
流行	73	9.3	95	16.1
古くさい	55	7.0	39	6.6
みすぼらしい	28	3.6	7	1.2
新品と変わらない	26	3.3	19	3.2
その他	12	1.5	8	1.4

●中古衣料品の再利用に対する意識

中古衣料品の再利用に対する意識に関して 2009 年と 2021 年に同様の質問を実施し、経時変化を調べた結果、選択肢の順位については大きな差はなかった。「種類によって抵抗感が違う」が 1 位で、「気に入ったものがあれば利用したい」、「着古し度合いにより抵抗感が違う」と続く結果であった。

ただし、少数の項目ではあるが、「抵抗感がない」「資源再利用で積極的に理由したい」という項目は割合的に増加している。中古衣料に対して、積極的に利用したいという傾向が伺える。

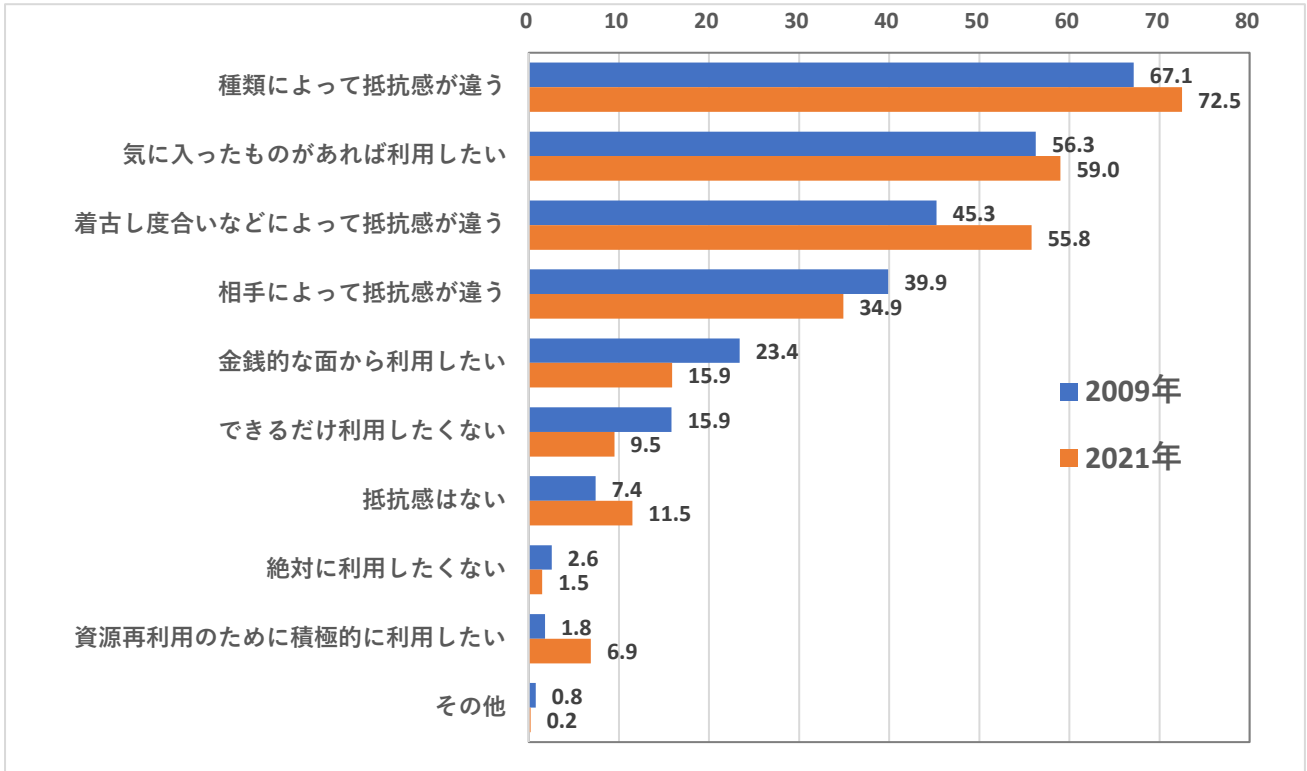


図 5：中古衣料品の再利用に対する意識（複数回答）(単位:%) 2009 年(n=782) 2021 年(n=590)

表 2：中古衣料品の再利用に対する意識（複数回答）

カテゴリ	2009年度調査		2021年度調査	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%
合計	782	100.0	590	100.0
種類によって抵抗感が違う	525	67.1	428	72.5
気に入ったものがあれば利用したい	440	56.3	348	59
着古し度合いなどによって抵抗感が違う	354	45.3	329	55.8
相手によって抵抗感が違う	312	39.9	206	34.9
金銭的な面から利用したい	183	23.4	94	15.9
できるだけ利用したくない	124	15.9	56	9.5
抵抗感はない	58	7.4	68	11.5
絶対に利用したくない	20	2.6	9	1.5
資源再利用のために積極的に利用したい	14	1.8	41	6.9
その他	6	0.8	1	0.2

●マイバッグの利用について

現在、買い物の際のマイバッグの利用状況は、「ほぼ毎回利用」「時々利用」を合わせて 88.2%が利用していると答えている。それに対して、「ほとんど利用しない」「利用したことはない」という利用しない派は 11.8%であった。

ヒアリングによれば、複数のマイバッグをバッグに入れており、女子大生らしいかわいいデザインにもこだわったマイバッグを選んでいる学生もいるようである。

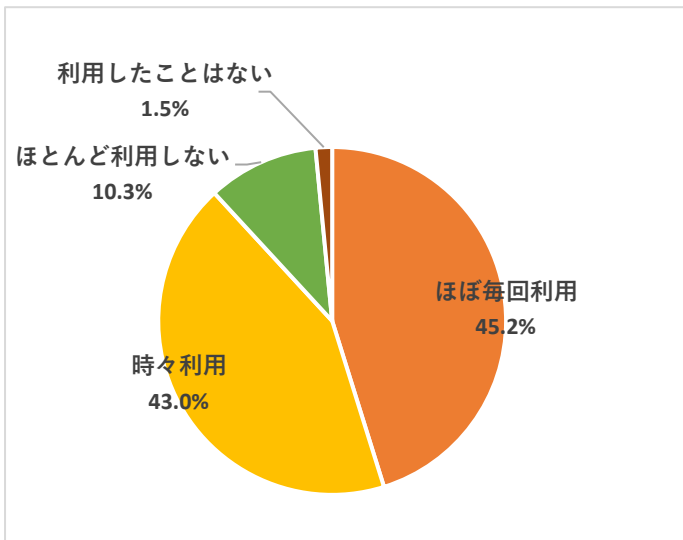


図 6：レジ袋有料化以降のマイバッグの利用変化

●マイバッグの利用増加

2020年7月1日にスタートしたプラスチック製買物袋有料化以降のマイバッグの利用について、「かなり増えた」「やや増えた」を合わせると 82.8%であった。SDGs を推進する人材として期待されている TA 養成課程の女子大生は、積極的にマイバッグ活用している状況が確認できた。

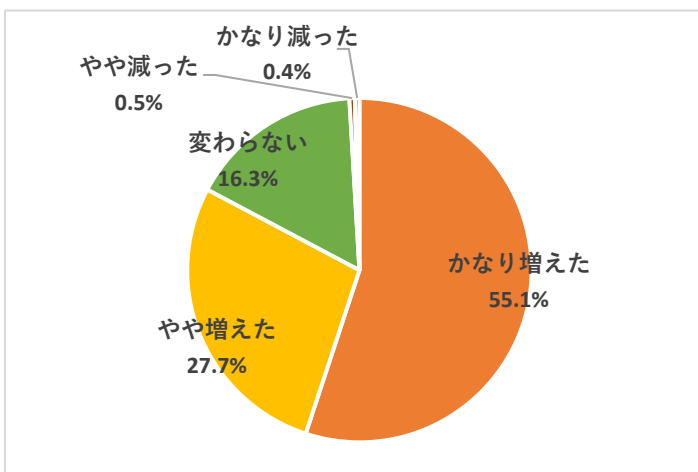


図 7：レジ袋有料化以降のマイバッグの利用変化

一般社団法人日本衣料管理協会 調査部会

URL: <http://www.jasta1.or.jp/research/research.html>

E-mail: jasta@mtb.biglobe.ne.jp